

# 平成30年度 学力向上プラン

学校名 中央区立明正小学校

## 学校の教育目標

なかのよい子ども 健康な子ども よく考える子ども

## 学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

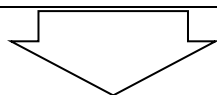
<子どもが楽しくきちんと学べる授業>

- ・互いに学び合い高め合う授業づくり ・体験的・問題解決的な学習
- ・教材・教具の工夫 ・年間指導計画の評価と修正 ・基礎・基本の徹底と定着
- ・指導法の工夫（チーム・ティーチング、少人数） ・講師、学習サポーターの有効的な活用

平成29年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童の学力の課題	主な要因
国語	「話す・聞く」領域は、比較的良好であるが、「関心・意欲・態度」や「書く」に課題がある。指定された長さで文章を書くことや、目的に沿って書くことに課題がある。	書く学習の不足や目的に沿って書く学習の不慣れがある。読み取った情報を基に適切な文章表現が苦手である。読書活動に個人差がある。
算数	「関心・意欲・態度」「技能」「知識・理解」が高いが、「数学的な考え方」について、計算の仕方の説明や、例示された考え方を正確に理解することに課題がある。また、基礎・基本を活用する力に課題がある。	式、言葉、表、図などを用いて考え、説明する、話し合うなどの算数的活動が不十分である。
社会	「思考・判断・表現」が高いが、「関心・意欲・態度」「知識・理解」の観点に課題がある。区の様子の内容や資料から課題を見つけたり、地図上で位置を表したりする力に課題がある。	調査や観察などの体験的な活動や、調べたことや考えたことを表現する活動が不十分である。
理科	「技能」の観点は高いが、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」に課題がある。現象から課題をつかんだり、「生命・地球」領域や、「物質・エネルギー」領域では、実験の条件を考えたりする力に課題がある。	自然事象への体験不足による関心の低さが考えられる。観察・実験を基に、話し合い活動の充実と学びの定着も不足している。
体育	体育に対する関心・意欲は高く、体を動かしたり動きを工夫したりすることに積極的である。体力テストでは、「上体起こし」「立ち幅跳び」「50m 走(男子)」の結果は全国を上回り、「長座体前屈」「20m シャトルラン」「ソフトボール投げ(女子)」は、課題である。	日常の遊びでは、同じ遊びを繰り返す傾向にある。男子ではボール遊び、女子では鉄棒やなわとびなど、遊びの男女差も影響していると思われる。体育授業における運動量の確保が不十分である。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	東京ベーシックドリル診断テストの学年正答率を、学年末に80%以上を目指す。
②授業改善	学校評価の自己評価において、授業に関する項目で、A B評価90%を目指す。
③教員の指導力	学校評価の自己評価において、学習指導の項目で、A B評価90%を目指す。
④家庭との連携	学習用具の準備や宿題の達成率を、各学級で学年末に90%以上を目指す。
⑤その他	なわとびやマラソン大会における、各種目の記録の向上を目指す。読書活動を充実させて、読書量の増加を目指す。



### 【目標達成のための具体的な取組内容】

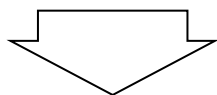
①学力基盤	
取組Ⅰ	基礎・基本の定着を図ることを目的としている「明正タイム」の時間における、内容や方法を充実させる。
取組Ⅱ	東京ベーシックドリルや診断テストを活用し、繰り返しによる学習の定着を図ったり、学習状況を個別に把握したりして、指導を充実させる。
取組Ⅲ	校内研究として取り組む生活科・理科の学習で、主体的・対話的で深い学びの学習を目指す。

②授業改善	
取組Ⅰ	校内で互いに授業公開を図り、問題提示方法、発問、板書、練り上げ方法など、学校全体の授業力向上を目指す。
取組Ⅱ	校内研究を中心として、問題解決型学習の展開を踏まえた学習を共通理解し、各教科の指導に波及させる。
取組Ⅲ	既習事項、身に付けた基礎・基本を活用する場面や考えたことを表現し、学び合う場面を設けた授業を行う。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	児童の学習状況を座席シートなどによる記録を基にして授業評価をし、指導の改善を図る。
取組Ⅱ	管理職による授業参観を通して、経験年数や実態に応じた指導力の向上を目指す。

④家庭との連携	
取組Ⅰ	保護者会や学年便り等で学習状況や学校での取組を伝え、発達段階に応じて家庭での学習の協力を依頼する。音読や自主学習ノートなどへの押印や記入などを通して保護者の関わりを増やし、理解と協力を得る。
取組Ⅱ	夏休みの期間を活用し、家庭の理解と協力を得て、基礎的・基本的な学力の定着を目指した夏季学習教室や、体験的な学習を中心としたサマースクールを実施する。

⑤その他	
取組Ⅰ	本校のマイスポーツである「なわとび」と「ペースランニング」の取組を公開し、家庭からの理解と協力を得て、児童の意欲喚起を継続して図る。
取組Ⅱ	総合的な学習の時間の学習を中心に、他学年との学習発表の場の交流を図り、学び合いの場を広げる。
取組Ⅲ	学校図書館指導員を活用した読み聞かせ等を充実させ、読書活動を推進する。



## 【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
①学力基盤	<ul style="list-style-type: none"><li>・一年を通して「明正タイム」を活用した漢字や計算練習や、算数科の習熟度別少人数指導に取り組み、その結果、各種学力調査等では概ね良好な状態である。</li><li>・児童が主体的に学びに取り組むようにしたことで、話し合い活動や表現活動が充実した。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・全体的な状況は良好だが、低位層の児童の学力を向上させることが課題である。個別指導の時間を確保したり、習熟度別少人数指導のグループ分けの工夫をしたりする等の取り組みが必要である。</li><li>・児童の学びに向かう力である課題発見力、課題解決力、意欲・関心等を高める取り組みが必要である。</li></ul>
②授業改善	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校評価（児童アンケート）における授業に関する項目でA B評価が90%以上であり、良好な状態と言える。</li><li>・平成30・31年度中央区教育委員会研究奨励校の指定を受け、理科・生活科の授業づくりを通して、問題解決型の授業展開を実施した。</li><li>・校内研究を通して授業改善を図り、問題提示、発問、板書、ノート指導、問題解決の方法等の工夫を行った。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習問題作りにおいて、児童が自分事として問題を捉え、解決まで見通せるような学習過程を確立する必要がある。</li><li>・理科・生活科だけでなく、各教科において標準的な指導方法を確立し、教員が共通理解していく必要がある。（授業スタンダードの確立）</li></ul>
③教員の指導力	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校評価（教員アンケート）における学習指導に関する5項目でA B評価は、3項目が95%以上、2項目が85%以上であり、良好な状態と言える。</li><li>・児童の学習状況を單元ごとに記録し、習熟度別のグループ編成や個別指導等に生かすことができたことで、授業中にきめ細かい指導を実施することができた。</li><li>・管理職や教育センター講師による授業参観やO J Tにより若手教員を中心とした実践的な研修が実施できた。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・児童の学習状況をより効率的に記録し、次の学習計画に生かすことができるように、電子システムを構築することが必要である。</li><li>・授業参観や研修の前に、教員が教材研究や指導案検討をしたり、研修の成果を実際の授業に生かすように振り返ったりする時間の確保が課題である。</li></ul>
④家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"><li>・保護者会や学年便りで学習の状況を伝え、家庭学習の協力を要請することができ、協力を得られている。</li><li>・家庭に夏季休業中の学習教室や個人面談期間の補習の実施について、意図と計画を説明し、児童参加の協力を得られた。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・補習の実施、家庭学習の取組等について、多くの家庭から理解と協力を得られているが、一部に意図が十分に伝わっていない家庭がある。</li><li>・学習の評価について、通知表の評価項目の文言が難しく、十分に伝わっていないことがあり、課題である。</li></ul>

<p>⑤その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイスクールスポーツである「なわとび」と「ペースランニング」については発表会を設定し、児童の意欲を大いに喚起した。</li> <li>・総合的な学習の時間や生活科で異年齢交流や学び合いの活動が充実した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・握力について依然として課題である。鉄棒等の器械運動についての取組を強化する必要がある。</li> <li>・高学年の図書室の利用率が低く課題がみられる。読書活動の充実を図る必要がある。</li> </ul>
-------------	--	---